

令和7年度 第2回理事会

日 時：令和8年 1月17日（土）10：00～15：00

会 場：アルカディア市ヶ谷 私学会館

令和7年度第2回理事会は、アルカディア市ヶ谷を会場とし、開催いたしました。

各都道府県理事の皆様から御意見をいただきながら、無事に全ての報告・議事についてご承認いただくことができました。

御協力ありがとうございました。

詳細につきましては、後日発行されます本部だよりを御覧ください。



司会 庶務部長 浮津 あゆみ



開会の言葉 副会長 古矢 美雪

会長挨拶 山口 祐美子



本日は校務ご多用のところ、令和7年度 第2回理事会にご出席いただきまして、ありがとうございます。本会の活動を支えてくださっている理事の皆様、心より御礼申し上げます。

はじめに、今年度開催されました全国研究協議大会 東京大会につきまして、改めて感謝を申し上げます。古矢 美雪 東京都公立小・中学校女性校長会会長、田中 明子 大会実行委員長をはじめ、東京都実行委員会の周到なご準備と、本日お集りの理事様の御協力に重ねて御礼申し上げます。

本日の第2回理事会では、今年度の活動報告に加え、来年度の活動方針案や事業計画案などについて、御審議をお願いしております。限られた時間ではありますが、実りある御協議を賜れば幸いに存じます。

現在、文部科学省においては、次期学習指導要領を見据えた議論が進められております。学びの質をいかに高めていくかという教育の本質的課題と同時に、教職員が安心して働き続けることのできる環境をどのように整えていくかという課題が強く意識されています。この二つは決して別々に考えるものではなく、学びの充実を目指すためには、教職員一人一人が持続可能な形で力量を発揮できる環境の整備が不可欠です。私たち校長は、こうした国の動きを「通知の理解」ととどめず、子供と教職員に結び付け、学校改革として具現化する責任を担っています。しかし改革の土台となる社会の在り方に目を向けると、そこにはジェンダー不平等の構造が存在している現実を直視せざるを得ません。こうした状況を考える上で、各府省が実施している公的調査が示す現状に目を向ける必要があります。

厚生労働省の「賃金構造基本統計調査」によれば、一般労働者の賃金水準は、男性を100とした場合、女性は75.8にとどまっています。さらに詳しく見ると、年齢が上がるにつれて男女の賃金差は拡大し、管理職層ではその差がより顕著になる傾向があります。非正規雇用に就く割合が女性に多いこと、昇進や配置の機会に差が生じていることなど個人の努力だけでは超えられない構造的な壁が今なお存在しています。

内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」や文部科学省による「児童生徒の進路指導・キャリア教育の実施状況等に関する調査」では、理工系分野や管理的職業において女性の割合が今も低い水準にあることが示されています。そこには、「向いている」「向いていない」「家庭との両立が難しい」といった無意識の思い込みや社会的な期待が影を落としています。本人の能力や意欲とは別のところで、選択肢が静かに、しかし確実に狭められていく、この構造は、私たち自身の歩みと重なって見えるのではないのでしょうか。

これらの調査結果は、社会の制度、組織の在り方が結果として人々の選択や歩みに影響を及ぼしていることを示すものであります。私たちがこの事実を冷静に受け止め、よりよい在り方を考えていくための重要な資料であると私は捉えています。さらに、国立女性教育会館が令和6年度「学校基本調査」を基に整理した資料によれば、公立小学校校長に占める女性の割合は全国で28.4%となり、第五次男女共同参画基本計画における成果目標である20%を上回りました。しかし一方で、中学校では12.2%にとどまっており、校種による差は依然として大きい状況にあります。また、都道府県別に見ても、校長に占める女性の割合が10%未満の地域が存在するなど、地域間格差が極めて大きいことも明らかになっています。加えて、成果目標そのものが「校長20%」という水準にとどまっていることを踏まえると、数値上の達成をもって課題が解消されたと捉えることはできません。固定的な男女の役割意識の根強さ、誰もが自分らしく働き続けられる環境や制度の未整備といった社会構造上の課題に、学校教育を通して粘り強く向き合い続けていくことの重要性を、私たちは改めて認識する必要があります。学校は、子供たちが多様な可能性に出会い、自らの将来を主体的に描いていくための重要な場であり続けなければならない、そう私は考えます。

本会は、女性が校長として学校経営を担うことが決して当たり前ではなかった時代に、先人たちが声を上げ、学び合い、支え合いながら築いてきた組織です。制度が整う前に、環境が追いつく前に、まず現場に立ち、実践と研究で道を切り拓いてきました。それは「女性だから特別な配慮を求めた」という歴史ではありません。誰もが力を発揮できる学校を創るために声を上げ続けた歴史です。だからこそ、この道は自然に続いてきたものではありません。意志をもって守り、広げ、次の世代へとつないでいかなければ、簡単に閉ざされてしまう道でもあります。

男女共同参画は、決して女性だけの取組ではありません。男女を分け隔てるものでもなく、誰もが支え合い、安心して責任を分かち合い、柔軟な働き方を認め合う。それぞれの力を発揮し続けることができる学校を創るための取組です。学校は子供たちが最初に出会う社会です。そこで大人が示す姿勢や考え方は、子供たちの将来の価値観にも大きな影響を与えます。社会における制度や数字がすぐには変わらなくても、学校現場の在り方は、私たち自身の手で変えられる、ということも私たちは知っています。

理事の皆様は、それぞれの地域・学校現場において、本会の理念を体現する存在です。次の世代により広く、より確かな道をつないでいくためには、理事の皆様お一人お一人の力がが必要です。学校現場から、未来を切り拓く子供たちを育み、社会の意識を変えていく、その中心に、女性校長会があり続けることを信じ、これからも共に歩んでまいりましょう。

令和8年度は、第76回全国研究協議大会を青森県青森市で開催いたします。現在、青森県実行委員会の皆様が準備に力を尽くしてくださっております。理事の皆様と夏の青森でお会いできますことを心から願い、私の挨拶とさせていただきます。

顧問挨拶 井口 美由紀



学校現場で多くの課題を抱えながらも、子供たちの笑顔と学びを守り続けておられる皆様のご努力に、深い敬意を表します。また本会を支えてくださりまして、誠にありがとうございます。

経営学者ピーター・ドラッカーは「組織の目的は成果を上げることであり、その中心にいるのは人である」と述べています。学校もまた子供たちの成長・変容という明確な成果を目指す組織です。その成果は制度や仕組みだけで自動的に生まれるものではなく、教職員一人一人がもつ力や思いが生かされてこそ実現するものです。校長のマネジメントは、人を管理することではなく、人がその力を発揮できる条件を整えることにあるという考え方は、今の学校経営にこそ、強く響くものだと感じています。

女性の活躍は以前に比べ確実に進んできましたが、現場の実感として十分に働きやすい時代になったとは言い切れないと思います。女性が管理職としてキャリアを積んでいくことに対して、まだまだ整っているとは言えない社会の現状があります。特に意識の面では、とりわけ男性側の理解が十分とは言えず、無意識の偏見や固定的な役割意識に直面する場面も少なくありません。ここにお集まりの皆様も、そうした経験をされたことはございませんか。私たちは言葉にしづらい違和感やもやもやしたものを抱えながら、それでも学校を前に進めようと努力してきました。そして、私たち義務教育に携わる校長には、今私たちが感じてきた生きづらさや違和感をこのまま子供たちの世代に引きつがせてはならないという大きな責務があります。

学校は、子供たちが出合う大切な社会の場です。その学校で、性別によって役割を固定されたり、無意識の思い込みによって可能性を狭められたりすることがあってはなりません。私たち校長自身が多様な生き方や働き方を認め合い、公正で開かれた組織をつくる姿を示すことが、子供たちへの何よりの教育になると考えます。

この理事会は単なる情報交換の場ではなく、こうした課題や思いを共有し、次の一歩を考える大切な学びの共同体でもあります。「女性のリーダーシップは象徴的な存在ではなく、教育の質とジェンダー平等の改善に実質的に寄与する」とユネスコの2025 ジェンダー・レポートでも述べられています。どうかお互いに支え合い、時に率直に語り合いながら、学校と社会の未来を切り拓いてまいりましょう。ここにご参加の皆様一人一人にとって、力を得る時間となることを願い、挨拶いたします。

報告・議事



議事 司会
副会長 佐々木 優子



令和7年度中間報告
令和8年度事業計画（案）
庶務部長 浮津 あゆみ



令和7年度決算報告
令和8年度予算（案）
会計部長 石川 千影



令和7年度監査報告
監査 仲村 恵子



第75回全国研究協議大会
「東京大会」報告
東京大会実行委員長 田中 明子



令和8年度活動方針（案）



全国大会開催県・発表県等について

文部科学省講演「当面する初等中等教育上の諸問題」



講師：文部科学省 初等中等教育局視学官

藤枝 秀樹 先生

令和8年度開催・全国研究協議大会「青森大会」について

自らの未来を切り拓き 共にによりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進
～誰一人取り残すことなく、地域・社会の担い手となる子供を育む学校経営～



青森県理事 竹原 まり子



令和8年7月30日（木）31日（金）

令和9年度開催・全国研究協議大会「大分大会」について

自らの未来を切り拓き 共にによりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進
～他者と協働し、持続可能な社会の創り手となる子供を育む学校経営～



大分県理事 大島 真美



令和9年8月2日（月）3日（火）

令和 10 年度開催・全国研究協議大会「千葉大会」について



令和 10 年 8 月 3 日 (木) 4 日 (金)

千葉県理事 穴浦 智子

報告・連絡事項



活動状況調査の依頼



会報 119 号について



会報 120 号について



各都道府県会員名簿の提出について

選考委員会報告



選考委員長
東京都理事 小川 真由美



監査の選出 中国地区より

令和8年度組織・運営について



地区情報交換



その他 報告・連絡



令和8年度地区大会について



ホームページについて



表彰状贈呈について



特別研修について



閉会の言葉 副会長 中谷 由恵子

各都道府県の理事、役員の皆様、御協力ありがとうございました。